

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：コミュニケーション（１）	
日付：１１月　１日　（土）曜日、セッション時間：１３：１５～１４：４５	
司会者名（所属）：秀島栄三（名古屋工業大学）	
討 議 内 容	セッション全体： まちづくりや防災，特に自助・共助に係る施策の効果を高めるために各地でワークショップや学習行事が頻繁に行われている．国や地方自治体はこれら事業の効果を明らかにしたいが，必ずしも直接的，絶対的でなく計測・評価が難しい．本セッションではこのような実情を背景に，ワークショップ討議内容の把握，態度・行動の変容のフェーズに対応した実施効果の計測について，それぞれ具体事例に基づく分析を通じて手法の提案がなされた．
	（発表番号） 発表者名（所属）：(119) 佐々木邦明(山梨大学) 「ワークショップにおける討議内容の数値化と視覚化の試み」と題して発表があった． 各参加者の発言を単語に分解し，名詞，形容詞を中心に類型化することで議論の主題，関心を把握する手法が事例分析の結果を踏まえつつ提案された． フロアから主体別，議論のながれも把握することについて提案があった．本研究の成果をワークショップ運営方法（の改善）にどのように活用すればよいかの議論が多くなされた．
	（発表番号） 発表者名（所属）：(120) 本間基寛（群馬大学） 「津波防災教育の効果計測手法に関する検討」と題して発表があった． 津波防災の教育を目的としたワークショップを実施するに際し，その効果を計測，評価するために人間の態度・行動変容の段階を credibility, awareness, understanding, solution, enactment とする枠組みに則った手法を検討，提案した． 上述の枠組みが実際に個人および社会においてどの程度成立するかについて多く議論がされた．
	（発表番号） 発表者名（所属）：(121) 熊谷兼太郎（国交省国総研） 「津波リスクコミュニケーションの効果の測定方法及び測定事例」と題して発表があった． (121)にて提案された手法を実際に用い，尾鷲市での講演会を事例に分析を行って得た参加者の態度・行動変容に関する結果が示された． enactment の評価の難しさ，登壇者による効果，結果の示し方，個人(差)を評価する必要性などの論点を中心に議論がなされた．